

## 活動名

長野市のまちづくり視察 不登校・子育て支援・動物愛護

## 1 調査の目的

## (1) 本市における課題

中核市移行後本市の多くの課題に対し、

## ア 不登校対策

本市の不登校対策は、学内の支援学級のほか学校に行かれない児童生徒を対象とした支援センターが4か所ある。中間教室から支援センターに名称変更し、学校復帰を目的としない対策がとられている中、各センターの受入れ人数は限定である。これらの現状と今後の対策を合わせれば、復帰を目的とせず集団的な生活環境を提供することへの課題がある。

## イ 動物愛護

中核市として先進長野市の設置された市保健所における動物愛護行政、特に苦情対応、広報活動、猫問題対策と、第二段階保健所新築および動物舎機能の検討は重大な課題である。

## ウ 子育て支援施設

天候に左右されず広い屋内で自由に行動できる、子どもと安心して過ごせる質の高い遊び場がないことを指摘されているが、有効な手立て手法を見いだせていない現状の課題がある。

## (2) 調査の必要性

本市に先行して中核市となり先進的に取り組んでいる長野市の現状を調査することが必要と考える。設置された長野市保健所動物愛護センターの業務内容の精査と補助事業の調査、動物舎の見学は、本市の第二段階保健所設置が計画されている段階において必要と考えた。

## (3) 調査項目

ア 廃校を活用した集中型学校支援センターの現状の取り組み

イ 長野市保健所動物愛護センター業務内容・助成事業、動物舎の取り組み

ウ 科学館を改修した遊びと学びの屋外型子育て支援施設の取り組み

## 2 調査地選定理由

(1) 郊外に支援センターを7か所設置しているほかに、新たに廃校を活用した集中型の支援センターを設置している現状を参考にできる。

(2) 本市に先行して中核市となり新設された長野市保健所動物愛護センターは参考となる。

(3) 従来からあった科学館を遊びと学びが出来る施設に改修し、多くの子どもが県

内外から訪れている。

### 3 調査結果

(1) 実施日 2025年2月13日(木)

(2) 出席者 神津ゆかり、横内裕治、上條一正、花村恵子

(3) 調査内容

#### ア 教育支援センターSaSaLAND

長野市立七二会小学校笹平分校を改修

- ・「子どもたちが安心を実感できる居場所」をコンセプトに①子どもたちの社会的自立に向けた支援 ②保護者への支援 ③教職員等の不登校に係わる研修の3つの柱のもとに、
- ・子どもも大人も呼んでもらいたい名前を名札に書いたりカラフルな室内、クッションの多用など寛げる空間作りをしている。
- ・2025年1月末時点での登録人数は187人(小学生121人、中学生66人)
- ・これまでの利用人数はのべ6364人、1日平均の利用人数は34.0人で、求められている施設であることが伺える。
- ・既存の7カ所のセンターはこじんまりしていて、そちらを好む子どももいるので、“ビュッフェスタイル”で子どもが自分にあったセンターを選べる、市全体では「バランスよく配置されている」とのことだった。
- ・SaSaフレンドという100人以上登録の信州大学の学生の存在や、子どもたちの「やってみたい！」を活かす多彩な活動、保護者への支援としてランチの提供、親の会、ペアレントトレーニングなど様々に取り組んでおり、開所から10ヵ月で3万人あまりの視察があるという。

#### イ 長野市動物愛護センター

長野市保健所に併設(別棟)

- ・動物愛護センターは「人と動物が共生する潤い豊かな社会の実現」を目指し、さまざまな業務をおこなっている。
- ・地域猫活動推進や動物の正しい飼い方の普及活動、収容した犬猫へのワクチン接種や駆虫薬の投与、月1回以上の譲渡会開催など、動物たちの命を守るプロジェクトを展開し、「地域猫座談会」など、市民向けの講座を月1度開催していることも特徴。そのほか、出前講座、捕獲おりの貸与、猫の忌避装置の貸与、地区回覧資料サンプルの提供などもおこなっている。
- ・動物愛護センターは、長野市保健所に隣接されており、木造平屋建171.42㎡、令和5年に、犬のために必要な運動スペースを確保し、観覧スペースを設けて譲渡事業を推進するための施設改修を行った。猫飼育室、治療室、

相談室、ふれあいルーム、レクチャールーム、猫隔離室、倉庫、洗浄室、犬飼養室、犬運動場で構成されている。

- ・ 猫問題の対応については、地域猫を行う地域やボランティアの負担を軽減する目的で、令和6年度、飼い主のいない猫に対する繁殖制限手術助成額を前年度より増額。
- ・ 飼い猫1頭あたりに対する助成額は不妊手術2500円、去勢手術1500円、計500頭、予算額1050万円、また、飼い主のいない猫および譲渡予定の猫に対する助成は不妊手術13000円、去勢手術10000円、計1000頭、予算額1180万円。予算は全額ふるさと応援基金(クラウドファンディング)から支出している。
- ・ 主に地域猫、一部多頭飼育対応といった本市の助成対象と比較すると、長野市の場合は、飼い猫も対象であり、そのほか、繁殖やその他の理由により、飼養することが困難となった者や、飼い主のいない猫等に対し、新しい飼い主を探す者など、助成対象が幅広いことが特徴。
- ・ また、予算額は長野市が1285万円、本市が242万円で長野市の1/5と圧倒的な差。

#### ウ ながのこども館 ながノビ

概要:RC造 B1F1 3,408 m<sup>2</sup> 城山公園内

運営:指定管理者 一般社団法人長野市開発公社

- ① 森のたんけんひろば
  - ・ 長野の自然や動物に親しみ、遊びながら自然や動物への興味関心を喚起する。
  - ・ 文科省36の動きや、感覚統合の考え方を取り入れた動きなど、子どもたちにそれぞれの発達に合わせて遊べる
  - ・ 幼児と児童の遊びゾーンを明確に区分し、安全性を確保している
  - ・ フリーに使えるひろばを設定し、さまざまな子どもたちを体操にした企画・催しを実施できる。
- ② 科学と創造のひろば
  - ・ 科学体験やものづくりをとおして、コミュニケーションや試行錯誤を促す
  - ・ 従来の科学館のイメージを変え、くつろぎ、いやされる空間の確保
  - ・ 個々のエリアを閉鎖せず、それぞれの体験のようすが見えるオープンな空間
  - ・ 既存の化学展示は集約し、市民の思い出を引き継ぎ、多世代で科学を楽しむコーナー
- ③ 宇宙アスレチック
  - ・ 「森のたいけんひろば」と同様に、文科省の36の動きや感覚統合の考え方

を取り入れた。走る、まわる、投げる、つかむ、登るなどの幼児期に身につけたい様々な基本動作を体験することができる。

#### 4 所感

ア 説明して下さった市の学校教育課の担当者も言っていたが、不登校はいまの社会の反映であり、要因は実に様々、教員の中にも理解にばらつきがあり、増え続ける不登校の子どもたちへの対応には国の教員養成のあり方の課題もある他、本当のインクルーシブとは何かという議論が、教育現場だけではなく広く重ねられていくことが重要だと感じた。

イ 動物と人との共生社会のため、また、苦情対応、多頭飼育対応、殺処分ゼロ、路上死を減らすなど、目標を達成するためには、さまざまな取り組みを同時に実施することが必要であり、大胆な予算措置と同時に、市民への呼びかけ、広報活動、地域や市民との協働が必要であることを認識し、本市の取り組みを促進させるため、働き掛けていきたい。

ウ 城山公園内にあった少年科学センターを市民の要望に応える施設として改築することによって、市民に活用される施設となっている。既存の施設を市民のニーズに答えて子育て世帯が天候に左右されず、こどもと安心して過ごせる質の高い遊び場にリニューアルした例として大変参考になった。

また、天候に左右されずに安心して過ごせる施設にとどまらず、知育となる質の高い遊び場を提供するという目的・方針にそって遊具なども考慮されている点も人気が高い要因と感じた。

土日祝日は入替制で行っていること、入場料の長野市民とそれ以外と区分していることなど、人気の高い施設であることがわかる。

このような施設があることは、子育てに魅力のある施策として松本市も検討することが重要と考える。

#### 4 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 11,060 円(交通費 JR1,500 円×4、バス代 500 円×4、タクシー3,060 円)